

入選

朴 彩希(ぱく ちえひ) 由木中央小 3年生

作品名: 見た目で、はんだんしない

図書: シャーロットのおくりもの

ふだん、ふたとクモがにがてなわたしに、お母さんが「この本を読んだら、ふたとクモがすきになるかもよ。」と、すすめられて、きょうみをもって読み始めることにしました。

けっかを先に言うと、お母さんの言う通りでした。この本を読んで、わたしが今まで思っていた、ふたとクモのいんしょうが大きくなりました。い前は、きたなくて、頭もわるいイメージのふたが、今はかわいくて、あいらしいふたにかかりました。いやらしいクモから、人よりかしこくて、やくそくをちゃんとまもるクモにかかりました。このへんかだけでも、この本を読んでよかったと思っています。

この本の中で、一番心にのこった場面は、お友だちにウィルバーのため、自分のいのちをかけて、さいごまでウィルバーをたすけるシャーロットの行動でした。小さなクモが二人がやったやくそくをまもるため、自分より大きいふたのいのちをたすけてあげた場面が一番きおくにのこっています。どんな小さな動物でも、いのちをもっている生き物には、見た目だけでは分からないのうかや生きている理由があると思います。だから、見た目だけでははんだんしてはいけないって事を知りました。

わたしがシャーロットだったら、シャーロットのように友だちや家族をまもってあげたいと思います。なぜかと言うと、私が1人でできないことや、分からないことがあったら、1人ではのりこえられないと思います。なので、友だちや家族をまもってあげたいと思いました。

だれかがこまっている時は、みんなのたすけあいがかいけつすることができると思います。そのため、私は今でも1人でできることをさがして、やりつづけようと思いました。そうしたら、みんながほしがる、シャーロットみたいな人になっているかもしれないからです。